

# 課題解決型学習が社会人基礎力にもたらす効果 —アンケート調査結果からの考察—

篠原 さやか・山下 真里

九州女子大学 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2020年10月19日受付、2020年12月2日受理)

## 要 旨

社会人基礎力の育成が大学教育においても求められている。このことを受け、九州女子大学の2年次開講の必修科目である「キャリアデザインⅡ」では、社会人基礎力育成のための「課題解決型学習」を継続的に実施してきた。本科目における課題解決型学習が社会人基礎力の向上にもたらす効果について、課題解決型学習開始時と終了後の2回実施した学生へのアンケート調査の結果を分析したところ、全36項目の設問のうち16項目について、1回目の調査時における平均値とくらべて、2回目の平均値が統計的に有意に高いことが明らかになった。特に、課題発見力、働きかけ力、主体性、計画力、発信力など、今回の課題解決型学習と関連する能力要素において平均値の差がみられ、社会人基礎力の向上に一定の効果があったと考えられる。今回の調査から、課題解決型学習により向上がみられた能力と、今後育成すべき能力について明らかにすることができたため、次年度以降の授業改善に活用する。

## 1 はじめに

2006年に経済産業省が提唱した社会人基礎力とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」であり、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力の3つの能力から構成されている。また、2016年頃から見直しが行われ、「人生100年時代の社会人基礎力」が新たに提示されている。ここでは、「自己を認識してリフレクション(振り返り)しながら、目的、学び、統合のバランスを図ることが、自らのキャリアを切り開いていくうえで必要」というふりかえりの重要性が指摘されるようになった。この社会人基礎力の育成は大学教育においても求められており、各大学が様々な取り組みを行っている。

このような現状を踏まえ、九州女子大学では、2年次後期開講の必修科目である「キャリアデザインⅡ」において、社会人基礎力育成の一助とするための「課題解決型学習」を2017年度から実施してきた。さらに、「人生100年時代の社会人基礎力」におけるふりかえりの重要性から、2019年度の課題解決型学習では、特にふりかえりの活動を充実させ、課題解決型学習の終了後においても学生が社会人基礎力の育成を意識できるように改訂を行った。本学の「キャリアデザインⅡ」で実施している課題解決型学習とは、学生自身が身近な課題を見つけ、グループで原因を分析した上で解決方法を検討し、解決策を実行した成果を発表するものである。しかしながら、授業中に課題解決型学習に一度取り組んだことにより社会人基礎力を身につけることは困難であるため、「キャリアデザインⅡ」の授業においては、以下の3点を主な目的として課題解決型学習を展開している。

- ・課題発見から課題解決、結果の発表までの一連のプロセスを体験すること。
- ・話し合いや思考を整理する手法を理解し、体験すること。
- ・普段あまりコミュニケーションを取らない人と協力して課題を解決する体験をすること。

これまでの課題解決型学習に対して、学生たちは非常に意欲的に取り組んでおり、授業としては有意義なものになっていると考えるが、それが社会人基礎力の育成にどのような影響を与えているのかについては十分に検討を行うことができていなかった。そこで、筆者らは、本学の「キャリアデザインⅡ」科目における課題解決型学習が社会人基礎力の向上にもたらす効果について、学生自身による定性的なふりかえりと、学生へのアンケート調査から得られたデータの定量的な分析によって検証することとした。前者については、篠原・山下(2020)において検証と考察を行っている。本稿では、後者の結果について述べる。

## 2 課題解決型学習の内容

はじめに、2019年度に実施した課題解決型学習の内容について説明する。なお、詳細は篠原・山下（2020）にまとめているので、そちらを参照されたい。

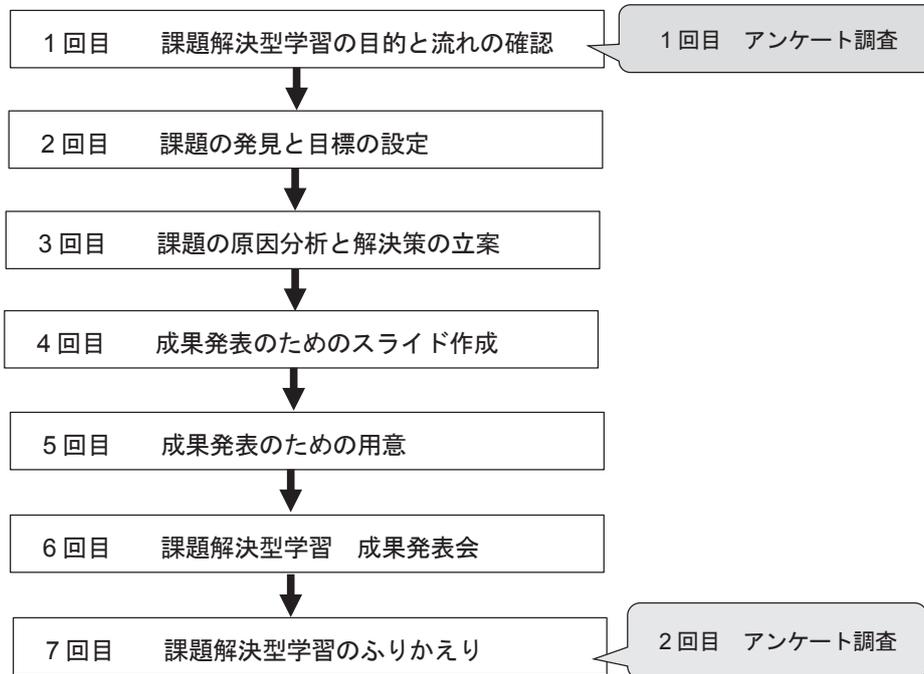


図1 課題解決型学習の流れ

本学の「キャリアデザインⅡ」では、7回の授業を使って課題解決型学習を実施している。ただし、課題解決型学習では、学生が課題を発見する期間や、課題を実際に解決するための調査や実験等を行う期間を要するため、キャリアデザインⅡの授業において、必ずしも7週連続して課題解決型学習を行っているわけではない。2019年度の課題解決型学習は、図1に示すように、学生が自分自身の課題を見つけ、同じグループの学生（3～5人程度）たちとその課題について、原因を分析して解決策を考えて実行し、その成果を発表するというものである。この一連の活動をグループで行う中で、社会人基礎力で示されている12の能力要素のうち、課題発見力や計画力、実行力、働きかけ力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力などが発揮されることが期待される。

この効果について検討するため、本稿では、社会人基礎力に関するアンケート調査の1回目と2回目の結果を比較し、その変容について考察を行うことにする。

## 3 アンケート調査の概要

### 3.1 調査項目

課題解決型学習の初回と終了後のふりかえりの授業の2回で実施した社会人基礎力に関するアンケート調査について説明する。筆者らは、課題解決型学習の開始時と終了後に同一項目のアンケート調査を実施することで、社会人基礎力の12の能力要素の変容を学生自身や科目担当者が把握し、「キャリアデザインⅡ」で実施している課題解決型学習の効果を検証することを試みた。

調査項目は、社会人基礎力の構成要素のうち、「前に踏み出す力（アクション）」を捉える主体性、働きかけ力、実行力の3要素、「考え抜く力（シンキング）」を捉える課題発見力、計画力、創造力の3要素、そして「チームで働く力（チームワーク）」を捉える発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロールの6要素について、それぞれ3問、計36問の設問から成る。アンケート調査の設計にあたり2018年に筆者らがレビューした既存の社会人基礎力の測定項目<sup>1)</sup>は、主に企業や組織内で使用することを想定しており、大学生には回答がやや難しいと感じられるものも多くあった。そのため、大学生活に沿った

内容となるよう筆者らが検討し、36の設問項目を作成した。項目は以下の通りである。

表1. 社会人基礎力の測定項目

前に踏み出す力	主体性	(1) 専門知識も教養も積極的に身につけようとしている。 (2) 何事も自分のこととして受け止めて動くことができる。 (3) ほかの人が嫌がること（役割、仕事など）にも、積極的に取り組んでいる。
	か働 け 力 き	(4) 話し合いなどであまり意見が出ていないメンバーがいたら、発言を促している。 (5) 周りの人に、目的に向かって一緒に行動するように声かけをしている。 (6) モチベーションが低い人がいても、一緒に目的を達成するように働きかけている。
	実行力	(7) 失敗を恐れずに、ねばり強く行動している。 (8) 自ら目標を設定し、達成するために取り組んでいる。 (9) 指示されたことだけではなく、自らやるべきことを見つけて取り組んでいる。
考え抜く力	発 課 見 力 題	(10) 現状を客観的に分析することができる。 (11) 現状分析を踏まえ、取り組む必要がある課題を見つけることができる。 (12) 課題を踏まえ、達成すべき目標を設定することができる。
	計 画 力	(13) 課題に取り組む時は、必要な手順や流れを意識して計画を立てる。 (14) 計画を立てるときには、時間に余裕をもたせるようにしている。 (15) 目標に向かって進んでいるか、チェックしながら計画を遂行している。
	創 造 力	(16) 課題に対して新しい解決方法を考えている。 (17) 他人の考えにヒントを得て、新しいアイデアを出すことができる。 (18) いくつかの考えを統合して、新しい考え方を打ち出せる。
チームで働く力	発 信 力	(19) 相手の立場や気持ちを考えて話している。 (20) 自分の意見を整理した上で話している。 (21) 適切な表現や言い回しを考えるなど、わかりやすく伝えるための工夫をしている。
	傾 聴 力	(22) 相手の話をさえぎることなく、最後まで聞くようにしている。 (23) 相手が話しやすい雰囲気を作るようにしている。 (24) 相手の話を受けて、それに関する質問をするなど、積極的に聞く態度を取っている。
	柔 軟 性	(25) 相手の意見や立場を尊重している。 (26) 他の人の意見やアドバイスをすすんで受入れている。 (27) 自分の考え方ややり方にこだわらず、臨機応変に対応している。
	状 況 把 握 力	(28) サークルやゼミ、アルバイトなどそれぞれの場において、自分が果たすべき役割や仕事を理解している。 (29) 自己中心的な態度をとらず、他の人たちとぎくしゃくすることはない。 (30) 自分の行動や発言がどのような影響を与えているか考えている。
	規 律 性	(31) 人と約束したことは必ず守っている。 (32) 課題やレポートなどは提出期限を守っている。 (33) たとえ周囲に見ている人がいなくても、社会のルールやマナーは守っている。
	ス ト レ ス コ ン ト ロ ール 力	(34) 自分なりのストレス解消法がある。 (35) 嫌なことがあっても、しばらくすれば気持ちを切り替えることができる。 (36) ストレスを自分の成長のチャンスとしてとらえている。

すべての設問項目に対する選択肢は「1=全くあてはまらない、2=あてはまらない、3=どちらでもない、4=ややあてはまる、5=とてもあてはまる」であり、数値が高いほど、その内容をより強く示すように設定されている。

### 3.2 調査方法

アンケート調査は、キャリアデザインⅡの授業時間内に実施した。1回目は、課題解決型学習の第1回目の授業、2回目は課題解決型学習の第7回目の授業で行っている。アンケートの回答には、効率的なデータの取りまとめのためマークシート用紙を用いた。

本アンケート調査は、九州女子大学共通教育機構倫理審査を経て実施した（九女機構承2019-01号）。調査の実施にあたり、授業中に行う調査ではあるが、マークシート回答用紙の提出による調査研究への協力はあくまでも任意であり、未提出の際の学生への不利益が一切ないことを口頭で説明した。ただし、先述したように、2回のアンケート調査によって、社会人基礎力の12の能力要素の変容を学生自身が把握することが活動の重要な目的の一つであるため、アンケート調査の実施、すなわちマークシート用紙への記入は必須とした。また、課題解決型学習のふりかえりとして、学生が1回目と2回目の調査結果を自ら比較すること、および、1回目と2回目のアンケート調査を両方提出した場合にのみを統計分析の対象とするという2点から、マークシート用紙に学籍番号と氏名を記入させるが、個人が特定されるような分析は一切行わないことをあわせて説明した。さらに、提出されたマークシート用紙および調査から得られたデータの管理には充分注意することを伝達した。上述したように、1回目と2回目の両方のマークシート用紙を提出した場合のみを今回の分析対象とし、サンプル数は270である。これは、全学生のおよそ90%が2回のマークシート用紙を任意に提出したことを示す。

## 4 結果

本節では、1回目と2回目のアンケート調査結果を統計分析した結果を示し、考察を行う。表2～4は、1回目と2回目の調査における各項目の平均値とその差異、および統計的な有意差の有無を示したものである。統計分析にはIBM SPSS23を用い、各設問項目について、対応のあるサンプルのt検定を実施した。

### 4.1 「前に踏み出す力」を構成する能力要素についての分析結果

はじめに、「前に踏み出す力」を構成する能力要素「主体性」「働きかけ力」「実行力」の結果について見ていく。

表2. 「前に踏み出す力」を構成する設問項目の平均値およびその差異

「前に踏み出す力」		n	1回目	2回目	差	有意水準
主体性	(1) 専門知識も教養も積極的に身につけようとしている	270	3.94	3.98	0.04	
	(2) 何事も自分のこととして受け止めて動くことができる	270	3.58	3.67	0.09	
	(3) ほかの人が嫌がることにも、積極的に取り組んでいる	270	3.30	3.57	0.27	***
働きかけ力	(4) 話し合いなどであまり意見が出ていないメンバーがいたら、発言を促している	270	3.07	3.31	0.24	***
	(5) 周りの人に、目的に向かって一緒に行動するように声かけをしている	268	3.32	3.42	0.10	
	(6) モチベーションが低い人がいても、一緒に目的を達成するように働きかけている	270	3.24	3.32	0.08	
実行力	(7) 失敗を恐れずに、ねばり強く行動している	270	3.39	3.51	0.12	*
	(8) 自ら目標を設定し、達成するために取り組んでいる	270	3.59	3.76	0.17	**
	(9) 指示されたことだけでなく、自らやるべきことを見つけて取り組んでいる	270	3.56	3.72	0.16	**

\*\*\*  $p < 0.001$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*  $p < 0.05$

まず、主体性を捉える3項目のうち、「ほかの人が嫌がることにも、積極的に取り組んでいる」という設問について、1回目の調査の平均値は3.30であった。2回目の調査では平均値は3.57であり、0.27ポイントの差が見られ、その差は統計的に有意であった。

続いて、働きかけ力を捉える3項目のうち、「話し合いなどであまり意見が出ていないメンバーがいたら、発言を促している」という設問について、1回目の調査の平均値が3.07であったのに対し、2回目の調査では平均値が3.31となり、0.24ポイントの差があった。この平均値の差異は統計的に有意である。

実行力を捉える3項目ではすべてにおいて、平均値の有意な上昇がみられた。「失敗を恐れずに、ねばり強く行動している」という項目の1回目と2回目の平均値は、それぞれ3.39と3.51であり、0.12ポイントの差があった。「自ら目標を設定し、達成するために取り組んでいる」という項目は、1回目の平均値が3.59、2回目の平均値が3.76であり、0.17ポイントの差がみられた。「指示されたことだけでなく、自らやるべきことを見つけて取り組んでいる」という項目では、1回目と2回目の平均値がそれぞれ3.56と3.72であり、0.16ポイントの差だった。

以上のことから、「前に踏み出す力」を構成する能力要素「主体性」「働きかけ力」「実行力」では、いずれの能力要素においても最低1つ以上の項目において平均値の有意な上昇が見られたといえる。

#### 4.2 「考え抜く力」を構成する能力要素についての分析結果

続いて、「考え抜く力」を構成する能力要素「課題発見力」「計画力」「創造力」について、結果を見ていく。

表3. 「考え抜く力」を構成する設問項目の平均値およびその差異

「考え抜く力」		n	1回目	2回目	差	有意水準
課題発見力	(10)現状を客観的に分析することができる	268	3.50	3.60	0.10	*
	(11)現状分析を踏まえ、取り組む必要がある課題を見つけることができる	270	3.48	3.69	0.21	***
	(12)課題を踏まえ、達成すべき目標を設定することができる	270	3.56	3.76	0.20	**
計画力	(13)課題に取り組む時は、必要な手順や流れを意識して計画を立てる	270	3.54	3.75	0.21	**
	(14)計画を立てるときには、時間に余裕をもたせるようにしている	270	3.54	3.57	0.03	
	(15)目標に向かって進んでいるか、チェックしながら計画を遂行している	270	3.26	3.24	-0.02	
創造力	(16)課題に対して新しい解決方法を考えている	267	3.26	3.45	0.19	**
	(17)他人の考えにヒントを得て、新しいアイデアを出すことができる	267	3.75	3.85	0.10	
	(18)いくつかの答えを統合して、新しい考え方を打ち出せる	265	3.51	3.66	0.15	*

\*\*\*  $p < 0.001$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*  $p < 0.05$

まず、課題発見力を捉える3項目すべてにおいて、1回目の調査に比べて、2回目の調査では平均値が有意に高かった。「現状を客観的に分析することができる」という設問については、1回目の調査の平均値は3.50であった。2回目の調査では平均値は3.60であり、0.10ポイントの差がみられ、統計的に有意であった。「現状分析を踏まえ、取り組む必要がある課題を見つけることができる」という設問では、1回目の平均値と2回目の平均値はそれぞれ3.48と3.69であり、0.21ポイントの統計的に有意な差がみられた。「課題を踏まえ、達成すべき目標を設定することができる」という項目では、1回目の平均値が3.56、2回目の平均値が3.76であり、統計的に有意な0.20ポイントの差がみられた。

次に、計画力を捉える3項目では、「課題に取り組む時は、必要な手順や流れを意識して計画を立てる」という設問についてのみ、平均値の統計的な有意差がみとめられた。1回目の調査の平均値が3.54であっ

たのに対し、2回目の調査では平均値が3.75となり、0.21ポイントの差があった。

また、創造力を捉える3項目では、2項目において有意な平均値の差が確認できた。「課題に対して新しい解決方法を考えている」という項目の1回目と2回目の平均値は、それぞれ3.26と3.45であり、0.19ポイントの差がみられた。「いくつかの答えを統合して、新しい考え方を打ち出せる」という項目の1回目の平均値は3.51、2回目の平均値は3.66であり、0.15ポイントの差があった。

以上のことから、「考え抜く力」を構成する能力要素「課題発見力」「計画力」「創造力」においても1つ以上の項目で平均値の有意な上昇が見られたといえる。

#### 4.3 「チームで働く力」を構成する能力要素についての分析結果

最後に、「チームで働く力」を構成する6つの能力要素「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」「規律性」「ストレスコントロール力」の結果について見ていく。

表4. 「チームで働く力」を構成する設問項目の平均値およびその差異

「チームで働く力」		n	1回目	2回目	差	有意水準
発信力	(19) 相手の立場や気持ちを考えて話している	267	4.10	4.19	0.09	
	(20) 自分の意見を整理した上で話している	267	3.57	3.73	0.16	**
	(21) 適切な表現や言い回しを考えるなど、わかりやすく伝えるための工夫をしている	267	3.74	3.91	0.17	**
傾聴力	(22) 相手の話をさえぎることなく、最後まで聞くようにしている	265	4.01	4.00	-0.01	
	(23) 相手が話しやすい雰囲気を作るようにしている	266	3.94	4.09	0.15	**
	(24) 相手の話を受けて、それに関する質問をするなど、積極的に聞く態度を取っている	266	3.88	3.86	-0.02	
柔軟性	(25) 相手の意見や立場を尊重している	266	4.13	4.19	0.06	
	(26) 他人の意見やアドバイスをすずんで受け入れている	266	3.96	4.05	0.09	
	(27) 自分の考え方ややり方にこだわらず、臨機応変に対応している	265	3.84	3.78	-0.06	
状況把握力	(28) サークルやゼミ、アルバイトなどそれぞれの場において、自分が果たすべき役割や仕事を理解している	266	4.08	4.19	0.11	*
	(29) 自己中心的な態度をとらず、他の人たちとぎくしゃくすることはない	266	3.81	3.96	0.15	**
	(30) 自分の行動や発言がどのような影響を与えているか考えている	266	3.78	3.85	0.07	
規律性	(31) 人と約束したことは必ず守っている	266	4.17	4.19	0.02	
	(32) 課題やレポートなどは提出期限を守っている	265	4.48	4.54	0.06	
	(33) たとえ周囲に見ている人がいなくても、社会のルールやマナーは守っている	266	4.33	4.33	0.00	
ストレスコントロール	(34) 自分なりのストレス解消法がある	266	3.95	3.99	0.04	
	(35) 嫌なことがあっても、しばらくすれば気持ちを切り替えることができる	263	3.73	3.82	0.09	
	(36) ストレスを自分の成長のチャンスとしてとらえている	262	3.09	3.13	0.04	

\*\*\*  $p < 0.001$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*  $p < 0.05$

この6つの能力要素のうち、今回の調査で統計的に有意な平均値の差が見られたのは、発信力、傾聴力、状況把握力の3要素のみであった。

発信力を捉える3項目のうち、2項目について平均値の差がみられた。「自分の意見を整理した上で話している」という設問については、1回目の調査の平均値は3.57であった。2回目の調査では平均値は3.73

であり、0.16ポイントの有意な差が見られ、「適切な表現や言い回しを考えるなど、わかりやすく伝えるための工夫をしている」という項目では、1回目と2回目の平均値はそれぞれ3.74と3.91であり、0.17ポイントの差があった。この項目の平均値は、1回目の調査時にも高水準であったが、2回目ではさらに高くなっていた。

続いて、傾聴力を捉える3項目のうち、「相手が話しやすい雰囲気を作るようにしている」という項目については、1回目の平均値が3.94、2回目の平均値が4.09であり、0.15ポイントの差があった。この項目についても、1回目の調査時点で高水準であったが、2回目ではさらに高くなっていた。

状況把握力を捉える3項目のうち、2項目で平均値の統計的な有意差がみられた。「サークルやゼミ、アルバイトなどそれぞれの場において、自分が果たすべき役割や仕事を理解している」という項目については、1回目の平均値が4.08、2回目の平均値が4.19となり、0.11ポイントの差があったが、1回目の調査時においても高水準であることがわかる。「自己中心的な態度をとらず、他の人たちとぎくしゃくすることはない」という項目については、1回目と2回目の平均値がそれぞれ3.81と3.96であり、0.15ポイントの差が確認できた。

「チームで働く力」を構成する6つの能力要素のうち、今回の調査で平均値の有意な差が見られなかった柔軟性や規律性についても、1回目の調査時点における3項目の値を合計した平均がそれぞれ3.98と4.33と高水準であった。このことから、本学の学生は「チームで働く力」が2年次において比較的身につけているといえる。なお、ストレスコントロール力については、今回の学習では該当する活動が特段なかったことから、平均値に差が生じなかった可能性がある。

#### 4.4 結果のまとめ

このように、課題解決型学習開始時と終了後に実施された2回の調査から得られたデータを分析した結果、36項目の設問のうち16項目について、1回目の調査時における平均値とくらべて、2回目の平均値が統計的に有意に高いことが明らかになった。特に、課題発見力、働きかけ力、主体性、計画力、発信力など、課題解決型学習と関連する能力要素において平均値の差がみられた。

以上のことから、キャリアデザインⅡの授業で実施した課題解決型学習には、社会人基礎力の向上に一定の効果があったと考えられる。

## 5 おわりに

経済産業省が提唱する社会人基礎力は、大学教育においてもその育成が期待されている。そこで、九州女子大学では、社会人基礎力の養成の一助とするために課題解決型学習に取り組んでいる。本研究では、本学の2年次必修科目である「キャリアデザインⅡ」において、2017年から実施している課題解決型学習が社会人基礎力に与える効果を定量的に検証した。本学の課題解決型学習では、7回の授業を用い、学生がランダムに数人のグループを作り、生活における身近な課題を発見し、原因を分析した上で解決策を検討・実施し、そのプロセスと結果について発表を行っている。学習の開始時と終了後に同一項目のアンケート調査を実施することにより、社会人基礎力を構成する能力要素の変容を明らかにした。

1回目と2回目の調査から得られたデータを用い、平均値の変化およびその統計的な有意差を検証した結果、課題発見力、働きかけ力、主体性、計画力、発信力など、特に今回実施した課題解決型学習と関連する能力要素の向上が確認できた。また、平均値から、本学学生の強みとして、規律性、柔軟性等の「チームで働く力」が挙げられること、また、弱みは「前に踏み出す力」を構成する働きかけ力や、「考え抜く力」を構成する計画力であることが明らかになった。

しかしながら、2ヶ月あまりの間に同一項目のアンケート調査を実施したため、学生がいわゆる「調査慣れ」をした可能性は否定できない。また、2回目の調査については、課題解決型学習の取り組み直後であったため、回答の際に設問項目の内容を意識した可能性がある。また、アンケート調査の項目が適切に社会人基礎力を測定できるものになっていたのかについても今後検討を行っていく必要がある。

本稿では、社会人基礎力に関するアンケート調査の分析によって、本学で実施している課題解決型学習を

通して、社会人基礎力を構成する能力要素のうち、向上がみられた能力と、今後育成すべき能力について明らかにすることができた。これらの点については、科目担当者会議において議論し、その結果を次年度以降の授業改善に活用したい。

#### 参考文献

株式会社ワーククリエーション「社会人基礎力 自己分析シート」

<http://graceful.blush.jp/pdf/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E4%BA%BA%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E5%8A%9B%E8%87%AA%E5%B7%B1%E8%A8%BA%E6%96%AD%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88.pdf> 2018年9月閲覧（現在は未掲載）

経済産業省 経済産業政策局産業人材政策室（2018）『『人生100年時代の社会人基礎力』と『リカレント教育』について』

[https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/mirainokyositu/pdf/002\\_s01\\_00.pdf](https://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/mirainokyositu/pdf/002_s01_00.pdf)（2020年4月21日閲覧）

篠原さやか・山下真里（2020）「キャリアデザインⅡにおける社会人基礎力の育成に向けた課題解決型学習の取り組み」『九州女子大学 学術情報センター研究紀要』vol.3 pp.55-61

office isaca「社会人基礎力研修資料」<https://www.officeisaca.com/> 2018年9月閲覧（現在は未掲載）

#### 謝辞

本稿は、九州女子大学2019年度「特別教育研究費プログラム」による成果の一部である。調査にご協力いただいた学生の皆さんと、調査実施およびデータの取りまとめにあたりご協力いただいた教職員の皆様に感謝いたします。

#### 注

1) アンケート項目の設計は2018年9月に行ったが、この時期には学生を対象とした社会人基礎力測定のためのアンケートはあまり見られず、そのため、社会人向けのアンケート項目を参考にして設計を行った。アンケートの設計においては、2018年9月にインターネット上で公開されていた株式会社ワーククリエーション「社会人基礎力 自己分析シート」、office isaca「社会人基礎力研修資料」等を参考にしたが、これらは2020年10月現在、未掲載となっている。

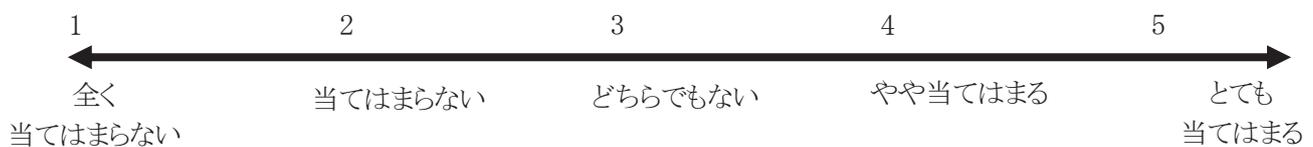
## 資料

## 社会人基礎力 自己分析シート

学籍番号

氏名

次の質問について、普段の生活を想定し、以下の1~5のうちもっとも当てはまると思うものを選び、マークシートにマークしてください。質問は裏面にもあります。



## 主体性

- (1) 専門知識も教養も積極的に身につけようとしている。
- (2) 何事も自分のこととして受け止めて動くことができる。
- (3) ほかの人が嫌がること（役割、仕事など）にも、積極的に取り組んでいる。

## 働きかけ力

- (4) 話し合いなどであまり意見が出ていないメンバーがいたら、発言を促している。
- (5) 周りの人に、目的に向かって一緒に行動するように声かけをしている。
- (6) モチベーションが低い人がいても、一緒に目的を達成するように働きかけている。

## 実行力

- (7) 失敗を恐れずに、ねばり強く行動している。
- (8) 自ら目標を設定し、達成するために取り組んでいる。
- (9) 指示されたことだけではなく、自らやるべきことを見つけて取り組んでいる。

## 課題発見力

- (10) 現状を客観的に分析することができる。
- (11) 現状分析を踏まえ、取り組む必要がある課題を見つけることができる。
- (12) 課題を踏まえ、達成すべき目標を設定することができる。

## 計画力

- (13) 課題に取り組む時は、必要な手順や流れを意識して計画を立てる。
- (14) 計画を立てるときには、時間に余裕をもたせるようにしている。
- (15) 目標に向かって進んでいるか、チェックしながら計画を遂行している。

## 創造力

- (16) 課題に対して新しい解決方法を考えている。
- (17) 他人の考えにヒントを得て、新しいアイデアを出すことができる。
- (18) いくつかの考えを統合して、新しい考え方を打ち出せる。

## 発信力

- (19) 相手の立場や気持ちを考えて話している。
- (20) 自分の意見を整理した上で話している。
- (21) 適切な表現や言い回しを考えるなど、わかりやすく伝えるための工夫をしている。

## 傾聴力

- (22) 相手の話をさえぎることなく、最後まで聞くようにしている。
- (23) 相手が話しやすい雰囲気を作るようにしている。
- (24) 相手の話を受けて、それに関する質問をするなど、積極的に聞く態度を取っている。

## 柔軟性

- (25) 相手の意見や立場を尊重している。
- (26) 他の人の意見やアドバイスをすすんで受入れている。
- (27) 自分の考え方ややり方にこだわらず、臨機応変に対応している。

## 状況把握力

- (28) サークルやゼミ、アルバイトなどそれぞれの場において、自分が果たすべき役割や仕事を理解している。
- (29) 自己中心的な態度をとらず、他の人たちとぎくしゃくすることはない。
- (30) 自分の行動や発言がどのような影響を与えているか考えている。

## 規律性

- (31) 人と約束したことは必ず守っている。
- (32) 課題やレポートなどは提出期限を守っている。
- (33) たとえ周囲に見ている人がいなくても、社会のルールやマナーは守っている。

## ストレスコントロール

- (34) 自分なりのストレス解消法がある。
- (35) 嫌なことがあっても、しばらくすれば気持ちを切り替えることができる。
- (36) ストレスを自分の成長のチャンスとしてとらえている。

## **Analysis of the Impacts of Problem-Based-Learning Approach on the “Fundamental Competencies for Working Persons” Based on Students’ Survey**

Sayaka SHINOHARA\*<sup>1</sup>, Mari YAMASHITA\*<sup>2</sup>

\*<sup>1</sup>Division of General Education, Kyushu Women’s University

\*<sup>2</sup>Faculty of Humanities, Kyushu Women’s University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi 807-8586, Japan

### **Abstract**

There is a need to improve students’ “Fundamental Competencies for Working Persons,” suggested by the Ministry of Economy, Trade, and Industry in Japan in higher education. Over the past few years, authors have been using the Problem-Based-Learning approach in Career Design II, which is a mandatory course for sophomores of Kyushu Women’s University. Based on the results from two surveys, which were conducted prior to and after the Problem-Based-Learning, we found that mean scores for 16 items out of all 36 items were statistically significantly higher at the second survey, compared to the first survey. Specifically, there were significant mean differences in two surveys on the abilities to identify problems, have a sense of independence, make plans, and communicate effectively. These abilities are related to our Problem-Based-Learning activities, and we believe that they were effective to improve students’ “Fundamental Competencies for Working Persons.” We are going to apply the survey results to improve course activities in the future.

**Keywords:** Fundamental Competencies for Working Persons, Problem-Based-Learning, Active-learning, Group projects